

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成25年2月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成25年1月分(平成24年12月31日～平成25年2月3日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	11,805	20.53	14.99	↑	10	百日咳	6	0.02	0.05	
2	RSウイルス感染症	261	0.73	1.06	↓	11	ヘルパンギーナ	8	0.02	0.02	
3	咽頭結膜熱	121	0.34	0.41	↓	12	流行性耳下腺炎	50	0.14	0.60	↓
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	437	1.21	1.26	→	13	急性出血性結膜炎	3	0.03	0.00	
5	感染性胃腸炎	3,610	10.03	10.40	↓	14	流行性角結膜炎	60	0.63	0.76	↑
6	水痘	424	1.18	1.57	↓	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
7	手足口病	53	0.15	0.20	↑	16	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
8	伝染性紅斑	25	0.07	0.19	↑	17	マイコプラズマ肺炎	11	0.10	0.28	↑
9	突発性発しん	132	0.37	0.48	↑	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成25年1月分(1月1日～1月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	54	2.35	2.12	↑	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	117	5.57	5.71	↑
20	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.78	0.63	↓	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	0.43	1.26	
21	尖圭コンジローマ	13	0.57	0.37	↓	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	13	0.57	1.12	→	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.14	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

●急増疾患 インフルエンザ(1,011件→11,805件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↑	↓	1:1.5～2の増減
微増減	↑	↓	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名（管轄保健所）
一類	0	発生なし
二類	35	結核(35)〔西部保健所(6), 西部東保健所(1), 東部保健所(4), 北部保健所(1), 広島市保健所(15), 呉市保健所(1), 福山市保健所(7)〕
三類	4	腸管出血性大腸菌感染症(4) O157(4)〔福山市保健所〕
四類	1	レジオネラ症(1)〔西部保健所〕
五類全数	14	アメーバ赤痢(1)〔福山市保健所〕, ウイルス性肝炎(1) B型(1)〔広島市保健所〕, 急性脳炎(1)〔北部保健所〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔広島市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(7)〔広島市保健所(5), 呉市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, 梅毒(1)〔西部保健所〕, 破傷風(1)〔広島市保健所〕, 風しん(1)〔西部東保健所〕

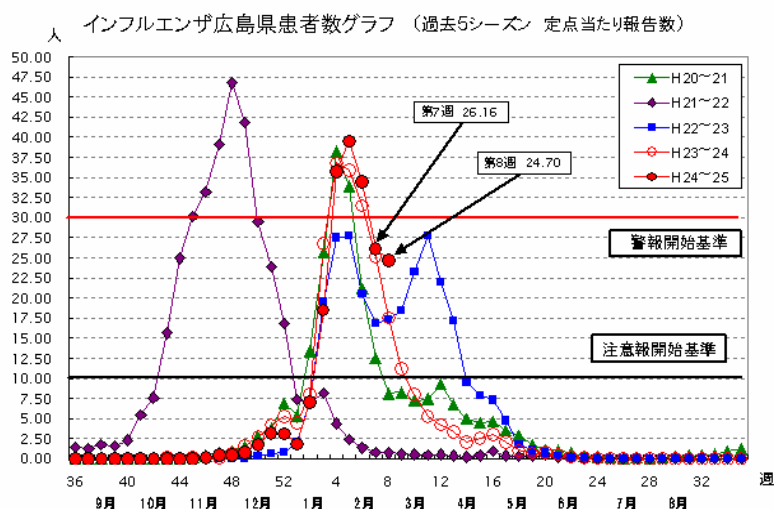
3 一般情報

(1) インフルエンザの流行状況について

インフルエンザの定点医療機関(115医療機関)からの患者報告数が、平成24年12月の1,011人から平成25年1月は11,805人と急増しました。

また、平成25年第4週(1月21日～28日)には、西部、西部東、広島市及び呉市の4保健所管内で警報開始基準(定点当たり30)以上となり、インフルエンザの流行が本格的になったと考えられるため、平成25年1月31日、県内に「インフルエンザ警報」を発令しました。

1月中旬から小学校を中心にインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の報告も急増しており、しばらくは流行が続くものと考えられますので、次の点に注意していただき、感染予防・流行拡大防止対策の徹底をお願いします。



- ・ 外から帰ったときなど、こまめに“流水と石けんで手洗い”及び“うがい”を励行しましょう。
 - ・ 咳エチケット【咳・くしゃみの際にはハンカチなどで口や鼻を覆い、周りの人から顔をそむける。咳・くしゃみの症状がある場合は、マスクを着用する。】を守りましょう。
 - ・ 睡眠をしっかりととり、偏食せずバランスのとれた食事を心がけ、体力をつけましょう。
 - ・ 室内は、加湿器などを使って、適度な湿度(50%～60%)を保ちましょう。
 - ・ 人が集まる場所への外出は避け、出掛けるときは、不織布(ふしょくふ)マスクを着用しましょう。
 - ・ 症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。
- 特に基礎疾患(腎臓疾患, 心臓疾患, 呼吸器疾患等)をお持ちの方や、妊婦, 高齢者, 乳幼児は合併症を起こしたり、重症化する恐れがありますので注意しましょう。

(2) マダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について

県内において、平成25年2月18日に重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome: SFTS)の患者が確認されました。

この事例は、昨年亡くなった患者の症例であり、SFTSウイルスが確定できるようになったことから顕在化したもので、新たに感染の危険性が高まったものではないと考えています。

この病気は、多くの場合、ウイルスを保有しているマダニ(主に森林や草地等の屋外に生息しており、家庭内にいるダニとは種類が異なります。)に咬まれることにより感染します。

SFTS等マダニが媒介する感染症を予防するには、マダニに咬まれないようにすることが非常に重要です。特に春から秋にかけてマダニの活動が盛んになってくることから、農作業、レジャーや畑仕事など屋外で活動する際は、①皮膚の露出を避ける、②マダニの入り込みを防ぐ、③屋外活動後は、体や服を叩き、入浴等して身体をよく洗い、衣服は洗濯する等、注意が必要です。



フタトゲチマダニ 成虫(オス)約2.3mm

なお、詳しい情報は、こちらのホームページをご覧ください。

- 広島県ホームページ「マダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の予防方法, 相談窓口について」
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/sfts-yobou.html>
- 広島県ホームページ「県内における重症熱性血小板減少症候群(SFTS)患者の発生について」
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/sfts.html>